

入 試 年度	2026 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 24 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	英文学専攻
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	英 語	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
[I]					
【出題の意図】 文学理論の一般人による受けとめられ方と、その効用について書かれた 1995 年の比較的容易な英文（著作権保護あり）を出題し、下線部のみの和訳を求めることで、英語の基本的読解力を評価することが狙いです。					
【採点時の観点】 文体や語彙の点で、文芸翻訳調の「こなれた」和訳は必ずしも求めません。あくまで 1) 構文理解、2) 文脈に沿った語義選択技術、3) 当該一節の文脈・状況の理解が充分推量できる程度の日本語訳能力——を評価しました。文学理論は「難解」であるという評価、文学理論が現代人の思考に与えている影響、そして理論の効用が文意にそった日本語に直されているかが最大のポイントとなります。					
[II]					
【出題の意図】 奴隷制を経験したアフリカ系アメリカ人の教育者 Booker T. Washington の自伝（1901 年）からの一節を出題しました。下線部のみの和訳を求めることで、英語の基本的読解力を評価することが狙いです。筆者に関する伝記的知識を前提としなくても十分理解できる程度の難易度です。					
【採点時の観点】 文体や語彙の点で、文芸翻訳調の「こなれた」和訳は必ずしも求めません。あくまで 1) 構文理解、2) 文脈に沿った語義選択技術、3) 当該一節の文脈・状況の理解が充分推量できる程度の日本語訳能力——を評価しました。					
[III]					
【出題の意図】 動的システムとしての言語と、様々な要因からなるその多様性などについて述べた 2008 年の英文（著作権保護あり）を出題し、下線部のみの和訳を求めることで、英語の基本的読解力を評価することが狙いです。					
【採点時の観点】 文体や語彙の点で、文芸翻訳調の「こなれた」和訳は必ずしも求めません。あくまで 1) 構文理解、2) 文脈に沿った語義選択技術、3) 当該一節の文脈・状況の理解が充分推量できる程度の日本語訳能力——を評価しました。動的対象としての言語に見られる用法上の偏差につき、文意にそった日本語に直されているかが最大のポイントとなります。					

[IV]

【出題の意図】 文学系、言語学系をそれぞれターゲットにした簡単な設問に対し、200語程度の英語で回答せよという問題です。博士前期課程での研究に求められる最低限の英語のライティング技術の有無を評価することが狙いです。

【採点時の観点】 高度な学術的英文スタイルは求めません。1) 平易かつ簡潔な英語であること、2) 英語ライティング上の最低限の文法運用能力が認められること、3) ライティングにつかえるレジスターの語彙力、綴り力が認められること、4) 簡単かつ論理的な文章を英語で書けること、5) 対象となる研究分野についての常識的知識を英語で述べることができること——を評価しました。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。